

整形外科研修プログラム

I プログラムの一般目標 (GIO)

乳腺外科疾患の診断、治療ができるための基本的な知識と技能を習得する。

II 行動目標 (SBOs)

1. 救急医療にかかわる際の、運動器系救急医療の初期対応を習得する
2. 指導医とのコミュニケーション法を習得する
3. 整形外科疾患の術前後の管理を習得する
4. 整形外科治療の基本手技のごく基本を習得する
5. 症例提示法を習得する

III 方略 (LS)

1. 救急患者、外来初診患者の間診をとり、初期対応を指導医とともに行う
2. 入院患者を指導医とともに担当し、毎日の観察、術前後の指示出し、手術介助、縫合処置の実際を行う
3. ケースカンファランスで担当患者のプレゼンテーションを行う
4. 入院記録、手術記録を作成する
5. 関節穿刺、腰椎穿刺などの手技を指導のもと行う

IV 経験すべき疾患

1. 骨折（大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、胸腰椎圧迫骨折、上腕骨頸部骨折、開放骨折）
2. 外傷（挫創、腱損傷、筋損傷、靭帯損傷、関節脱臼）
3. 感染（化膿性関節炎、蜂巣炎）
（やや専門的な内容として）
4. 関節疾患（変形性関節症、痛風）
5. 脊椎疾患（椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症）
6. 骨粗鬆症
7. 腫瘍（原発性骨腫瘍、転移性骨腫瘍）

V 評価(EV)

1. EPOC による評価を行う。
2. レポートの提出により評価を行う。（腰痛、四肢のしびれ）

2年次選択研修【1～6ヶ月】

I プログラムの一般目標 (GIO)

ローテイト研修の一環として、希望者が2ヶ月間整形外科の臨床の基礎を学ぶ。整形外科スタッフ（主に専門医）の指導の下で、外来・救急外来・病棟・手術室での整形外科疾患に対する診療を学ぶ。

II 行動目標 (SBOs)

1. 四肢脊椎の疾患を扱い、その運動機能や痛みの改善を獲得するための基本的な取り組み方を習得する。
2. チーム医療であることを理解し、その和を重んじて診療に当たる。
3. 整形外科疾患を念頭に置いた病歴を作成し、症例呈示ができる。
4. 整形外科画像診断に精通する。
5. 一般的な整形外科的処置および整形外科的検査の手技を習得する。
6. 手術前後の全身局所状態の把握ができる。
7. 簡単な手術の助手ができる。

Ⅲ 方略 (LS)

1. 整形外科疾患の基本的診察法 (問診、診察および病歴作成)
2. 画像診断 (単純X線、CT、MRI、各種造影画像)
3. 一般的創傷処置
4. 整形外科的処置 (関節内注射、腱鞘内注射、神経鞘内注射、トリガーポイント注射) 脱臼・骨折の徒手整復
5. 副子固定、ギプス固定
6. 脊髄造影、関節造影
7. 入院患者の担当
8. 臨床カンファレンス、抄読会への参加
9. 手術前後の患者の観察および処置
10. 手術の助手

Ⅳ 経験すべき疾患及び

Ⅴ 評価(EV)

基本研修に記載のため省略

整形外科研修スケジュール

第1週) 部長と行動をともし、各種業務の基本を学習する。

第2週) 毎日異なるスタッフと行動をともし、各種業務の基本を学習する。特に病棟業務に慣れることを重視する。

第3週～ 指導医とともに入院患者を受け持ち、許可された範囲で診療を行う。
外来では初診患者の問診を行い、指導の下に外来処置を行う。
積極的に手術に参加する。

第5週～ 指導の下にある程度の手術技法や特殊検査を実施することを考慮する。

研修にあたり注意すること

問診や診察以外の診療行為は、指導医とともに行うこと。

チームの和を重んじること。

情報収集がこの仕事の大半を占める。